

● 地域提案型

平成19年度 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 国名	ウズベキスタン共和国
2. 事業名	サマルカンドペーパーの復興と観光資源化による生活向上
3. 事業の背景と必要性	<p>サマルカンドは人口約38万人の都市であり、文化交差点としてユネスコの世界文化遺産に登録されている。首都タシケントに次ぐ経済、文化の中心都市で観光資源に富み、伝統的に手工芸が盛んである。しかし、ソビエト連邦崩壊後は、経済的に沈滞化しており、観光開発に大きな期待を寄せている。</p> <p>サマルカンド工芸協会（MEROS メロス）は、手漉き紙を中心に、手織り布、草木染、陶器、木工芸等の伝統工芸の保存と開発振興を目的に、1996年に設立されたNGOである。ユネスコの支援を受けて紙原料叩解のための水車小屋が復元され、平成15年には、JICAの短期専門家が派遣された。しかし、平成19年7月におこなった我々の訪問調査では、残念ながら、この4年間の間には大きな発展、展開は、なされてこなかったようである。</p> <p>中国に起源を持つ紙は、シルクロードを西進し、仏教文化圏の中で伝え広まった。その後、イスラム文化圏、ヨーロッパへと普及する。その過程の中で、サマルカンドにおいて、紙をパーチメント（羊皮紙）のようにペン書きに十分対応できるように細工、工夫する技術を生み出したものと考えられる。8世紀の紙や製紙法が残されていないため、そのもの自体に直接アプローチすることは不可能であるが、8世紀に行われていた中国（唐）の古代製紙法、ヨーロッパの手工芸漉紙、筆記用具、道具の形状などから、それらの紙を推測することは、容易であると考えられる。</p> <p>当会の所在地である水俣市は、水俣病により、長い間公害の町として有名であるが、近年、環境モデル都市として、多くの訪問者を受け入れるようになってきた。この負の遺産を逆手にとってプラスに転換していく活動に尽力した経験を持つ会員も複数いることから、その経験や実績を活かしたいと考えている。</p> <p>8世紀のサマルカンドペーパーの復元や住民の就労の場の創出、工芸職人の支援を通して復興を支援し、住民の生活向上を図りたい。</p>
4. 事業の目的	8世紀から始まっているサマルカンドペーパーの復興、復元支援と技術者の養成、商品開発支援により雇用を創出し、生活向上を図る。
5. 対象地域	ウズベキスタン共和国サマルカンド
6. 受益者層	1. サマルカンド工芸組合（メロス） 2. サマルカンド地域住民
7. 活動及び期待される成果	<p>サマルカンドペーパーの製造技術の復元と紙すき技術の指導を通じて、紙製品が観光資源・商品として定着する手掛かりを得るために、専門家派遣と研修員受け入れ事業を実施し、以下の活動を行う。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 工房施設の整備2. 8世紀のサマルカンドペーパーの「絹の紙」「スルタンの紙」の製法の復元3. サマルカンドペーパーへの導線となる観光資源の掘り起こし4. 紙漉きの基礎技術の移転
8. 実施期間	1. 専門家派遣 平成20年8月6日～平成20年9月5日 2. 研修員受入 平成21年1月5日～平成21年1月27日（予定）
9. 事業の実施体制	（特活）植物資源の力が研修および専門家派遣実施機関となり、本事業全般について対応する。また、サマルカンド工芸組合（メロス）が研修員選考や専門家派遣の際の現地での対応を含む事業全般に関わり現地側協力機関となる。
II. 応募団体の概要	
1. 団体名（提案自治体）	特定非営利活動法人 植物資源の力（熊本県水俣市）
2. 対象国との関係、協力実績	平成19年3月、メロスの日本人協力者から（特活）植物資源の力常任理事金刺潤平（紙漉き職人）にサマルカンドペーパーの紙漉き技術の向上、商品開発等に対する協力の要請があった。以来3ヶ月に渡りメールのやり取りを通して、意見交換を続け、同年7月サマルカンドにあるメロスを訪問し、機材、原料、技術、製品、博物館等の調査及び紙漉きのデモンストレーションと簡単な指導を行った。